



産科探領図訣

一

ヤ 9
1138
1



水原先生著

不許翻刻
千里必究

產科探頷圖訣

廣青倉藥

薛生菴藏版



產科探頷圖訣
 見方先生不巖繁業燈下偷閒紙田
 筆耕或到雞鳴脫稿之日余請覽之
 此探頷圖訣是真濟生之妙術子

產科探頷圖訣

序

序

梵音譯之大道心成就多情忘己憐
 他慈悲仁讓之至極者也然則余為
 此序何可謂不當乎今也先生卒業
 余已受先生之惠豈坐過厚哉於茲
 天不刊不文齊言其端以擬謝恩云
 天... 為... 甲午初冬... 書

僧亮照方明撰併書



一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

生術之用鉤。惟救其母而預其子。
 於是忘寢食而工夫二十餘年。
 恍有所得。因新製三卷以試
 之。其卷柔。揆溫。繞曲直。弛張
 從心。莫不自在。終拖
 發乃中。母子

此公... 術... 祕作圖訣以示
 同此實仁人君子之用心也。後
 世因以此術以知艱難則
 博之功亦不在禹之下也。聊
 題一言以記其績。

天保乙未七月

新尾張
字津水益夫識



可尊信書

知

文法
亦知微之難

孰也者以其出而不適宜則此

其法不及害之也存人其微唯依遵

於陳編固執於舊規不審順逆核

不明進退取舍既無運用應變之策

與吾先人美以故請予序予不肖惡
 能尚雖然士父之執回游之禮不可
 辭請曰言取以塞其責云
 天保乙未暮秋

初軒服却後



夫... 二成之常理而非疾病
 也然... 困於難產而母子
 俱斃者多矣明和年間子玄子施手術
 以救之尔來因其術以免其死者亦不
 少矣其有功于產科可謂偉矣余亦學
 其術於劣齋與先生晝夜研究終得其
 術後歸故里每救難產竊謂臨產見挾

陰戶其母疲勞漸進腰腹陣疼休穩婆
 束手以待必死方此時雖不死胎之候
 悉備不以鐵鉤鉤出其兒則產母必斃
 矣故不得已而講棄小獲大之一術以求
 萬死中之一生此亦醫道之權也雖然
 為出死地不可謂非不仁也此余
 心也故是構思二十餘
 歲恍有所發明因新製

一器名曰探領器睡龍
 子以之者耶名曰探領器睡龍
 器奪其器所以名器具圖上 余又謂知而不告
 不忠也得而不傳亦不仁也故今欲傳
 此術於後昆以擴天地好生之一端故
 不媿不文綴國語以作之圖并訣以述
 此術之手段學者宜參考圖與訣以習

其術至其神奧。則非筆鋒之所得盡也。若有難領會者。須面余質之。莫以未鍊憶想之術。損傷人命。今刻成矣。使天下後世之困於難產者。免於死斃。則余之拙技為造化生成之一助乎。幸莫大焉。

天甲

水原博濟卿謹識



親功ニ
視ルニ
此書圖ヲ設ケ訣ヲ舉ルハ、初學ノ早ク理會シ
易キカ為ナリ、圖ヲ左ニシテ訣ヲ右ニシテ講究
セバ乃チ術意自ラ明ナリ、而レ凡其微意ニ至
テハ筆鋒ノ盡ス所ニ非ズ、志アラシキ者來テ質
問セハ一頓ニ融解セシ、

疏水器圖

探股器圖

探領術設薦高枕開股豎膝仰卧圖

兒頭支橫骨礙尿道小水不通用疏水器圖

探領術順產第一圖

同第二圖

同第三圖

同第四圖

同第五圖

同第六圖

同第七圖

橫產露手膊及臍帶第九圖

同第十圖

坐產探之得臀尻第十一圖

同第十二圖

逆產露一足不挽第十三圖

頸斷兒頭遺腹內第十四圖

子癰破膜下漿水第十五圖

救血暈及崩漏第十六圖前

同圖後

卷一 產科全書第十一圖

探領術撮要

難產死胎候法附孕婦難產候法

探領術

救逆產

救頸斷兒頭遺腹內訣

分挽訣

救逆產 體厥出兒頭拒橫骨難分挽訣

救頸斷兒頭遺腹內訣

救癰胎難分娩訣

救子癰訣

出母子兩斃訣

下胞衣訣

卷二

產科全書

救血暈及崩漏訣

救寒戰咬牙訣

治驗

胞衣及隨胎奇胎圖

嬰兒保護訣 附治驗

標



産科

水原博濟卿著

美濃 塚原厚 玄仲

薩摩 松田為親 正圓

全校

○探領術撮要

凡此術ヲ施サント欲スル寸ハ先ヨク其脉症ノ虚實ヲ診シ胎ノ死活順逆横偏及ビ娩時ノ遅速難易ヲ詳密ニ辨知スベシ必ズ倉卒ニナスベカラズ兎角初心ノウチハ急ギガ千二十





ルモノナリ慎ムベシ、初産ノ婦ハ陰門ノ開キ
 アシキ者故、二三日分娩セズトモ、胎子膜ヲ冒
 リ水漿未ダ迸ラザルモノハ、婉期未ダ至ラザ
 ルナリ、必ず倉卒ニスベカラズ、既ニ破漿シテ
 後、兒陰戸ニ挿レ、努力漸々止ミ、數日分娩セズ、
 衆醫藥術盡キ祈禱符祝ノ効ナク産婆手ヲ束
 子、坐ラ其ノ斃ヲ俟ノ期ニ當テ斯術ヲ施シ、萬
 死ニ至ラズ、母兒俱ニ命全キヲ得セ



此術

ハ、イヅレ産難日ヲ延クモノ
 勞アル者故、施術後、動モス
 一、バ脱血、暈昏ノ變症ヲ發スルヲアリ、又婉
 後日ヲ經テ快ラザル者アリ、或ハ婉後轉胞ス
 ルモノアリ、或ハ遂ニ蓐勞トナル者アリ、或ハ
 婉後陰戸中傷損シテ遺尿シ、竟ニ不治ノ症ト
 ナルモノアリ、是レ皆施術ノ過失ニアラズ、産
 難日ヲ延クニヨレバナリ、而レ凡俗人ハ手術
 ノ過チニ歸スルヲアレバ、クレぐモ倉卒ニト

リカ、ルベカラズ、サテイヨク術ヲ行ハント
 スル寸ハ、其主人又ハ姻族ナドノ高年耆老ヲ
 閑所ニ招キテ、其危篤ノヨシ及ビ^{トヨルヒト}婉後變症ノ
 下ナド詳ニ説聞セ、若モ父母兄弟ナド少シニ
 テモ、不得心ノ趣ナラバ必ズ術ニトリカ、ル
 べカラズ、能々得心ノ上へ深ク請ヒ求ルノ時
 ニ、施シ求^ルベシナリ、但シ又假令婉後何事モ
 ナク、^ハフトモ、必ズ輕易ニ説キナ
 一大事ニシテ、醫ノ心ヲ用ユ

方或公真^加桂參湯或ハ四逆加人參湯ノ類
 症ニ随テ撰用スベシ、人參ハ必ズ虧ヘカラズ、
 此^場ニ用ル^人參^ハ上ニモ舉ルガゴトク、兎角
 廣東^産ヲ用ユベシ、上ニモ舉ルガゴトク、兎角
 コノ時ハ難治ヲコトハルガ第一ニシテ、實ニ
 病家ヨリハ母子俱ニ棄物ニシテ、醫師ニウチ
 一カサレバ此術ヲ施スベカラズ、格別危イ
 ト念フ症ニナクトモ、人參ハ用テ預^メ婉後ノ

變ヲ防禦^{フセク}ベシ、然レ凡人參ヲアマリ多服セシムベカラズ、若シ晚後ニ至リ血逆上氣頭痛面赤等ノ症ヲ發スル寸ハ、俗人ハ言フニオヨバズ、佗醫ナドモ兎角人參ノワザノ如クニ思フモノナリ心得ベシ、
 術ヲ行フ時、産室ヘ妄リニ佗人ヲ入ルヲ禁ズベシ、止其^クノ妹トカイツレニモ近親ノ者一与^ハハ門人一人位ニシテ其餘^カカツテ

ハ、是レ婦ノ意ヲ安ニセシメ、術ノ容子ヲ佗人ニアラハニサセマ^テ設ナリ、
 術ヲ行ハ^ハナラバ、先ツ手盥^テ様ノ物ニ沸湯ト冷水等分ホドノ温湯ヲ取ヨセ、探領睡龍ノ二器ヲ其中ニシバラク漬シ置ベシ、器甚ダ柔軟ニナリテ屈伸自由ナルユエニ、術ヲ行ヒ易キナリ、
 術ヲ行フ寸、坐傍ニ、對症ノ藥劑、或ハ獨參湯、或ハ

熊膽、或ハ生姜汁、或ハ泊夫藍ノ類ヲ備ヘ置ベ
シ、是レ急變ヲ防クノ爲ナリ、

娩後ニ至ラバ、前方ヲ用ルトモ、又轉方スルトモ

其症ニ随フベキナリ、

○難産死胎候法

臨産、一二日、或二三日、分娩セズト雖、努力陣疼屢

ク来リ、胎動數回ニテ、微汗アルモノ、臨産ノ佳

兆ナク、胎動無ク、或ハ胎動スル者ハ、動モスレバ産シ

胎動無ク、或ハ胎動スル者ハ、動モスレバ産シ

臨産

臨産、一二日、或二三日、分娩セズ、脉ニ根脚ナク、煩躁シ

テ、手背冷シ、或ハ胎動無ク、血色無ク、唇口青白、呼氣冷

テ、時時反引ノ氣味アル者、惡候ナリ、娩後必ズ

變証アリ、胎動無ク、或ハ胎動スル者ハ、動モスレバ産シ

臨産、數日分娩セズ、兒腹内ニ死テ、其婦及テ飲食

如常、眼中清瞭、言語爽ニシテ、或妄ニ笑ヒ其狀

無病ノ人ニ似タル者、是レ佳事ニ非ス、娩後必

ズ變証アリ心得ベシ、胎動無ク、或ハ胎動スル者ハ、動モスレバ産シ

臨産、漿水逆リ下テ、分娩セザルノ二三日ヲ經テ

山根ノ準頭ノ間ニ、赤脈亂糸ノ似キヲ見ス者難
産ノ兆ナリ、又松花色ノ如キ黄色ヲ見ス者、是
安産ノ兆ナリ、

額ニ赤黒色ヲ見ス者ハ、難産ニ斃ルノ兆也、

口ノ傍ニ青色アラワレ、耳ノ前ニ及ブ者、難産ノ

兆ナリ、腕後十日ノ内ニ死セン、

顴骨ト腮骨ニ、青色ヲ見ス者、産難ノ兆ナリ、

鼻ノ角ノ間ニ、赤黒色ヲ見ス者、難産

ノ兆ナリ、

上根ニ至ルマデ、青色ヲ見スハ、難

産ノ兆ナリ、

山根ノ下ヨリ耳ノ傍ニ至ルマデ、青黒色ノ者、六

十日ノ内ニ死スルノ兆ナリ、

輔角ヨリ神光ニ至ルマデ、赤黒色ノ者、難産ニ死

スルノ兆ナリ、

耳ヨリ白氣出テ耳眩ノ傍ニ及ヌ者、百日ノ内ニ

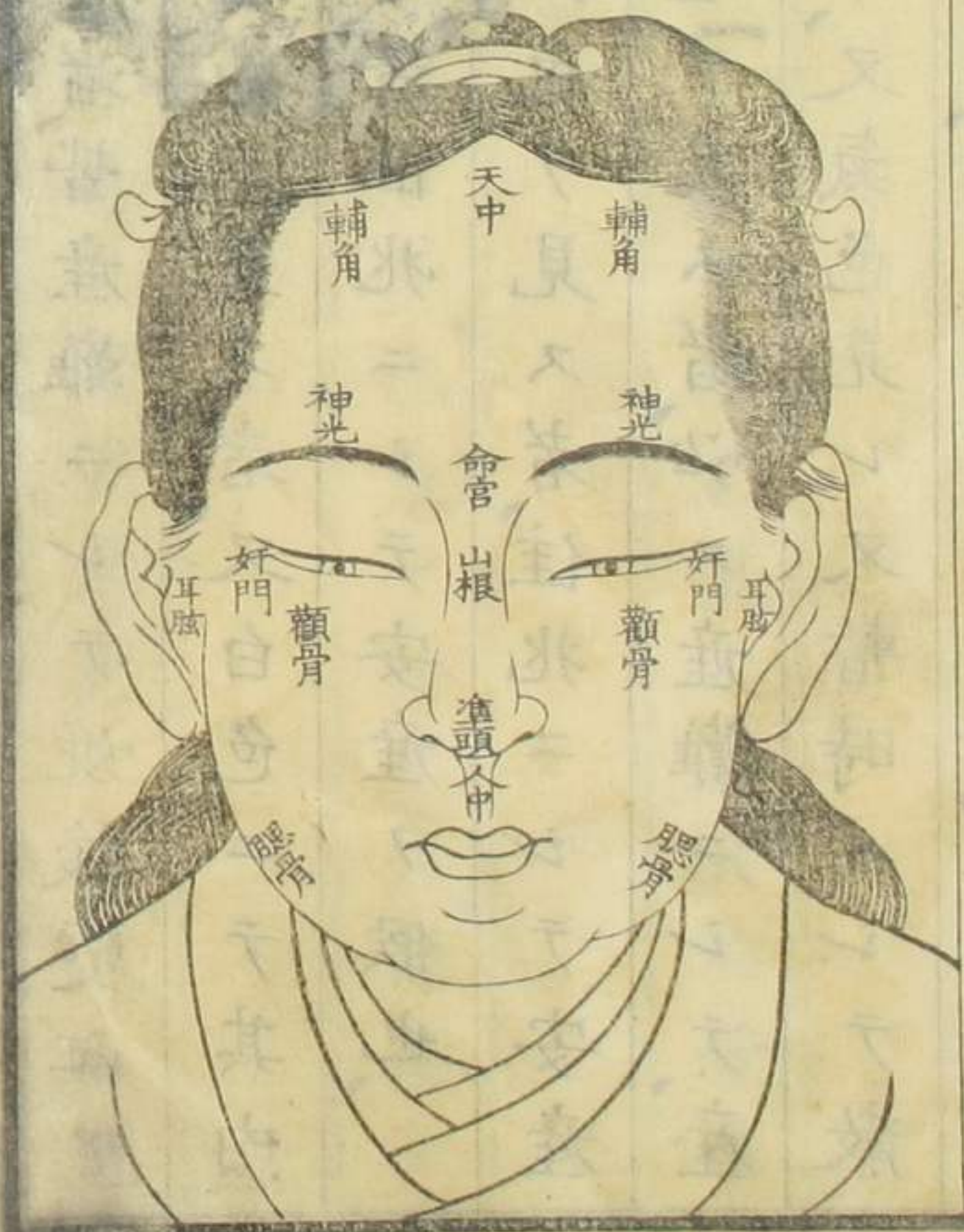
死スルノ兆ナリ、耳眩ハ耳ノ前
ノイボヲ云也

小鼻ノ上ニ赤脈見ル者ハ、難産ノ兆ナリ、

奸門青黑色ニシテ枯タル如キ色ノ者ハ、産難ノ
 兆ナリ、産後必ス變症アリ、
 天中ヨリ準頭ノ傍ニテ赤黑色ノ者、難産ノ兆ナ
 リ、
 眼下赤氣アル者、或青氣ノ者、黒氣ノ者、共ニ皆難
 産ノ兆ナリ、
 鼻ノ中頃ヨリ耳ノカケテ、赤氣アルモノ、難産ノ
 兆ナリ、
 或赤色ノ者、或黒色ノ者、或白色

者、皆産難ニシテ、婉後變証アリ、
 赤色ヲ含ム者、皆佳兆ニシテ安産ノ候也、
 産、右手掌中ニ紅色ヲ見ス者、佳兆ニシテ安産
 ス、又白色或黒色ヲ見ス者、必ス産難ニシテ、産
 後必ス變症アリ、又氣色見レ、又暫時ニシテ散
 シ、又暫時ニメ見レ、氣色往來スル者、尤モ難ニ
 シテ必死ノ兆ナリ、
 産後面色青キ者、或青黄色ノ者佳兆ナリ、赤色ノ

ノ者、白色ノ者、黒色ノ者、或白色ニシテ乾ク者、
 或青色ニシテ滑カナル者、皆凶兆ニシテ必ズ
 變症アリ心得ベシ、



術ヲ行ハシメテ

術ヲ行ハシメテ、前ニ先ツ蓐ヲ圖ル如ク設
 クベシ、而産婦ラシテ意ヲ安ンジ、帶ヲ解キ蓐
 ニ倚身、枕ヲ高シ股ヲ開キ膝ヲ豎テ、仰卧ナサ
 レ、其臀下ニハ敗絮敗衣ノ類ヲ數多ク布キ、
 又腹上ヨリ圖ノ如ク夏時ハ浴衣單衣ノ類、冬
 天ニハ綿入及ビ、アワセノ類ヲカケシ、而醫
 其前ニ坐シ其内ニ於テ術ヲ行フベシ、諸難産
 皆此蓐法ヲ用ユベシ、又手巾様古ツギヲ三

進メ、而右手ニ探領器ヲ、第一圖ノ如ク持テ、入
 置タル左手ノ食中ニ指ニ沿テ、イセニモ陰戸
 ニ觸ザルヤフニシテ、漸々ニ第二圖ノ如ク奥
 へ十分ニ進メ此器ト十知ラガレモナリ
 而後食中ニ指ヲ分チテ、器ヲ、二指頭ヲ以テ、第
 三圖ノ如ク兒頭ニ沿テ上へアゲ、又ソレヨリ
 睡龍器ヲ圖ノ如ク、ハメ、兒頭ニ沿テ陰戸ノ上
 邊、此器ト十知ラガレモナリ 横骨ノ間ヲスリテ、睡龍器ヲ
 進メ置キ、而探領器ヲソロリ

ノ下、此器ト十知ラガレモナリ 也、ソレヨリ第四圖ノ如ク
 能々カ、リタルヤ否ヲ試テ、能々カ、リタラ
 バ、睡龍器ヲハツシテ、第五圖ノ如ク探領器へ
 奪珠器ヲハメ、カヲ極テ強ク引ベシ、若シ探領
 器開キテ、兒頭シマリニクキ意アラバ、探領器
 ヲ一ツニツ子チ 捏テ引ベシ、捏ル寸ハ兒頭ヨクシ
 マルモノナリ、若シ兒頭下リ難キモ、第六圖
 ノ如ク婦ヲ匍匐ナサシメ、婦ノ後ヨリ引ベシ、

兒頭漸々ニ下リ、第七圖ノ如ク肛門開キタル
 時、第八圖ノ如ク左手掌ニテ、陰戸下邊及ビ
 肛門ヲカ、へ、食中無名ノ三指ヲ以テ、後ヨリ
 兒頭ヲ前へ引ベシ、次第ニ進ミ來リ、兒頭正
 方ニナリカケタル寸ハ、手モトヲ上へアゲ、陰門
 ノ上邊へ向ケ引出スベシ、既ニ兒ヲ出シ畢バ
 先、家方黑神散方見於ヲ冷水ニ調ヘ二三呷モ
 飲シ、氣、快、神、脈モ大氏ニ神有バ、即次ニ
 胞衣ヲ取ル、但シ面色赤ク脈息虛微崩脫

ノヲ、診察シ漫リニ胞衣ヲ下ス
 ベカ、大抵ナラバ、娩後早ク取下ス
 ベシ、若シ虚傾アリテ直チニ下シ難キ寸ハ、其
 胞衣ヲ産門ノ小口ニテ出シカケオキ、調血ノ
 藥劑ヲ用ヒ、氣息脈症精神自ラ定ルヲ待テ、而
 後ニ下スベシ、此レ、娩後子宮口ノ塞ガラザル
 前ニオロシカケオケバ、イツニテモ下シ易ク、
 殊ニ崩血ノ患モ無ク實ニ安心ノ良法ナリ、サ
 テ胞衣ヲ抜キ去ラバ、其アトへ直チニ敗絮ヲツ

ノ置ベシ、其法左手ニ敗絮ヲ持チ、右手ニ胞衣
 ヲ後取り、直ニアトヘ敗絮ヲツメ、而徐々ニ血
 水ヲ下スベシ、又胞衣ヲ下ス時、臍帶ヲ持チ引
 ニ、又ラツキテ執持シガタケレバ、半紙或絹ギ
 レヤフノ物ニテ卷持テ下スベシ、サテ兒ヲ引
 出シ、其兒色白ク支體動カザルトキハ、先試
 ニ臍帶ノ付根ヲ指ニテ、ツマミ診スベシ、動脈
 アル者、臍帶ノ付根ニ冷水ヲ吹洒グベシ、頓
 ニ萎萎スルモ、臍帶ノ付根ニ冷水ヲ吹洒グベシ、頓
 ニ萎萎スルモ、臍帶ノ付根ニ冷水ヲ吹洒グベシ、頓

ムナシ、臍帶ノ付根ニ冷水ヲ吹洒グベシ、頓
 イフ者、臍帶ノ付根ニ冷水ヲ吹洒グベシ、頓
 等ニ告知セ、是亦支體具足シテ無疵ト云
 ヲ見セシメンガ為ナリ、
 ○或人難ズ、此術器ヲ以テセバ、兒ノ咽喉シマ
 リテ、タトヒ活胎ニテモ死胎トナルベシ、カノ
 回生術トハ疵ツケルツケヌト云相違マデニ
 テ、何ゾ功用優レリトセシ、予答フ兒ノ体内
 ニ在ヤ呼吸スルヲナク、唯母ノ氣血ヲ臍帶ヨ

リ運輸シテ養育スルモノニテ未ダ母體ヲハ
 ナレザルウチハ母體ヨリ運輸スルユエニ自
 然ニ咽喉シマリテモ決シテ死胎ニハナラヌ
 ナリ既ニ生下シ母體ヲハナル寸ハ天地ノ
 氣ヲ呼吸シ生活スル者ナルガ故ニ氣道シマ
 ル寸ハ頓ニ死スルヲ必セリカノ鐵鈎ヲ用テ
 兒頭骨ヲ破裂シ拽出シタルニ多クハ活氣ア
 ツテ救ヒテ生カスルアウクト聲ノスルアリ予モ嘗
 テ見テ其難ヲ救ヒタルヲ年久シ其

産ノ難クハ千ノ予ヲ以テ刺ルガ如シ
 實ニイハレテ堪ヘカタキモノナリ於是余
 日夜苦思シテ漸ク此術ヲ發明セリ凡ソ難産
 日ヲ延キ分娩シガタキ者ト雖未ダ死胎ノ候
 ナキ者ハ余ガ是術ヲ用テ母子偕ニ永ク命ヲ
 保タシムベシ

○救横産不分娩訣
 凡横産手ヲ露シテ分娩セザル者之ヲ救フノ法
 先ツ探官術ヲ以テ兒頭右ニ偏側スルヤ左ニ

偏側スルヤヲ審カニ辨知シ、而其露シタル所
ノ手ニ、第九圖ノ如ク横産用器ヲ兒ノ腋下ニ
テハメ、露シタル所ノ手ト、其器ト共ニ束子持
チ、其兒頭ノ偏ナル方ヘ圖ノ如ク推轉上送ス
ヘシ、漸々ニ兒轉身スルヲ得バ、又一人探領
器ヲ第十圖ノ如ク、兒ノ臀尻ニ掛ケ、露シタル
所ノ手ニハメ、横産用器ヲ推シ上ケ、臀尻
ニカケ、探領器ハ、陰門ノ下邊ヘ引ベシ、兒
无、傳、下部、母ノ陰門ヘ近ヅキタラ

若シ指頭股解達
シ難キハ探股器
ヲ用テ拘出ス此
器指頭ニ代ニテ
便也以下ニ似

タル、横産用器ヲハツシ取り、
コノ時、探領器ノ穴ヘハメタル探領器ヲ
又キハツ、探領器ニハハメタル探領器ヲ
シ、安ソレヨリ、中指又ハ食指ヲ、陰門ノ下
邊ヨリ指ノ及ブホド深ク進メ、兒ノ足脚ヲ探
リ得テ、指頭ヲ以テ拘出スベシ、一足出ルヲ
得テ、臀尻ニカケタル探領器ト、カノ出シタル
一足ト束持チ、陰門ノ下邊ヘ強ク引ヨセ、又一
足ヲ探り出スベシ、兩足既ニ齊シク出テ後ハ、
兒ヲ綿衣ニツ、引出スベキ也、若シ兒體既
ニ出テ又腋

下ニヨリコダワリテ出腕ヲ探リ指頭ヲ
出ステ拘キナリ引

○救坐産不分婉訣

凡坐産ヲ救フ法、先ツ兒ノ臀尻ヲ醫ノ食中二指
ノ指頭ヲ以テ推シ上ゲ、少シニテモ股髀ニ近
ヅクヤフニナシ置キ、探領器ヲ第十一圖ノ如
ク進メ、ソレヨリ第十二圖ノ如クニシテ、醫力
ヲ極テ強ク是ヲ陰門ノ下邊へ引ベシ、兒ノ臀
尻所ニ至ルニ至リ、進ミ来ラバ、陰門ノ下邊ヨリ

此時用ル腫龍器
横産用器用ル所
ノ腫龍器ヲ用テ

中相ニ進メテ、兒ノ股髀ヲ探リ得テ、指頭
ヲ以テ探リ、是ヲ陰門ノ下邊へ引ベシ、雙足既ニ齊ク出テ後ハ、上
ノ横産ノ條ノ下ニ同シ、

○救逆産露一足難分婉訣

凡逆産一足ヲ露シテ、一足深キニ在テ分婉シ難
キ者、之ヲ救フ法、先ツ露シタル所ノ足ヲ持テ、
陰門ノ下邊へ引ヨセ、ソレヨリ第十三圖ノ如
ク、兒ノ腰眼章門ノ邊トオボシキ所ヲ探領器
ト腫龍器トニテヨク引シメ、露シタル一足

トカノ両器ト一所ニ束持チ、カヲ極テ強ク引
 ベシ、兒體漸々ニ下リ、大抵陰門へ兒ノ臀尻臨
 ヲバ、陰門ノ下邊ヨリ、食指或ハ中指ヲ深ク進
 メ、其足脚ヲ探リ得テ、指頭ヲ以テ拘出スベシ、
 雙足既ニ齊ク出テ後ハ、上ノ横産ノ條下ト同
 シ、

○救逆産兒體既出兒頭拒横骨難分娩訣

凡逆産兒體既ニ出テ、兒頭横骨ニカ、リ出難キ
 者、

兒頭既ニ出ルモノハ、強テ之ヲ出サント
 欲シテ、強ク引ク寸ハ動モスレバ頸斷ニ至ル
 者ナリ、若シ此ニ値バ第十四圖ノ頸斷ヲ救
 フ意ノ如ク、頸斷用器ヲ以テ兒頭ヲ抄ヒ、少シ
 ク引テ兒頭ヲウツムカセ、ソレヨリ其器ト兒
 體ヲ一所ニ束子持チ引出スベシ、

○救頸斷兒頭遺腹内訣

凡頸斷ハ逆産日ヲ延キ、兒體腐爛シ頸項斷絶シ
 テ、兒頭腹内ニ遺ル者ナリ、外ヨリ之ヲ探ルニ、

轉滑シテ捉へ難ク、水ニ浮ベル瓜果ヲ按スル
 ガ如キモノナリ、之ヲ出ス法、先ヅ人ヲシテ横
 骨際へ、兒頭ヲ聑ト押エ、轉移セガラシメ、此ヲ
 陰戸ノ下邊ヨリ、食中二指ヲ以テ探リ、指頭ニ
 應ゼバ、順産探領術第一圖ノ如ク、頸斷用器ヲ
 進メ、ソレヨリ第十四圖ノ如ク、其器ヲ兒頭ニ
 カケテ抄ヒ引出スベシ、第十四圖ノ如ク、

○救變胎難分娩訣

變胎、此胎前產ニ論ナク、若シ一活一死ノモ

ノヲラ、
 殞タルヲ以テ雙胎皆死トナスベカラス、其手
 術ノ如キハ上ノ諸術ヲ照シ、機變ヲ察シテ之
 ヲ救ベシ、但シ其胞衣ヲ下スニ、早ク陰門ノ小
 ロマデ出シ置ベキナリ、必ス^{ニルカセ}遲緩ニスベカラ
 ズ、變胎一胞衣ノ者ハ、其胞甚ク大ナル故ニ、子
 宮口シマ^ル寸ハ下シニクキモノナリ、心得ア
 ルベキナリ、

○救子癩訣

凡子痛ハ、妊娠月ヲ經ルノ多少ニ由テ、發痛暈
 倒スルヲ云ナリ、其發スルノ始メ、卒然トシテ
 暈倒シ、手ヲ舉ゲ足ヲ擲テ、指ヲ飛ビテ數ルガ
 ゴトク、或ハ面ヲ拊テ衣ヲ摸リ、眉目掣引、邪視
 露睛シ、鼻準噴脹、鼻息齁ヲナシ、或ハ唇吻顫動
 シ發聲叫喚、咬牙弄舌ス、一物膈間ニ上冲スレ
 バ忽チ呼吸息迫、痰涎壅盛、頭項強直、筋脉攣急、
 口噤シ、角ヲ反張シテ、人事ヲ省ズ、須臾ニシテ
 暈倒シ、又發ス、又其劇證ニ至テハ連

發シテ、齒ヲ齧ル、久、嘔吐噴逆シテ藥汁ヲ下ス
 一アタハズ、或咬牙ニヨリテ齒齧及ビ口鼻ヨ
 リ出血シ、臭穢當ルベカラザル者アリ、此症素
 リ癥瘕癖積鬱怒等ノ宿癖アル人、胎子長ズル
 ニヨリ宿癖發動スル寸ハ、固有ノ地ヲ胎子ノ
 爲ニウゴカサレ、偏僻ノ地ニ墮リ之ニ加ルニ
 思慮ヲ過用シ、鬱火焰升シ虚ニ事シテ奔騰シ
 テ心胸ニ撞衝ス、此症母子分身セザレバ治シ
 難シ、胎子分娩スル寸ハ腹内空虚ニナルガ故

二、宿癰固有ノ地ニ復シ、癰勢^新弛^弛シテ始テ醒
 省ヲ得ル者ナリ、故ニ此症ノ如キハ必ズ速ニ
 母子分身スルヲ要トス、其法^ニ探宮術ヲ
 以テ、子宮口ノ開クヤ否ヲ候^テ、子宮口一寸
 計リモ開キタラバ、第十五圖ノ如ク破膜器ヲ
 左手ノ中指、又ハ食指ニ沿ヘテ、陰戶ノ下邊ヨ
 リ子宮口ヘ進メ、ヨクク膜ヲ探リ定メ、カノ指
 ニ沿ヘタル破膜器ヲ、右手ニテ上ヘツキアゲ、
 破漿^ヲテ、漿水迸リ下ルナリ、

子宮口開キタラバ、探頷術^ニ
 賴テ其胎子ヲ拽出スベシ、娩後癰醒テ後夢ノ
 乍^キ覺タルニ似テ、始メヨリ絶テ事ナキ者ノ
 如キアリ、或ハ娩後尚^ホ連發シテ止ザル者ノ如
 キハ、終ニ不治ニ至ルモノアリ、或ハ醒レドモ
 懊悶^シ了了^ラガラガ^ル者アリ、或ハ恍惚^トシテ
 卧眠ヲ覺ガルガ如キ者アリ、或ハ神思朦々ト
 シテ痴^ハ騷^ノ如ク、或ハ舌本強直ニシテ言語蹇
 澁^シ、或ハ脚軟弱ニシテ歩行便ナラザル者ア

り、或ハ健忘シテ喜シテ涙ヲ流シ、笑ヲ發スレ
バ止メ難ク、或眼朦々トシテ見ヘ難ク、耳聾々
トシテ聞ヘ難キ者アリ、皆悉ク癰腫餘焰ナリ、
主方ハ附録試驗方ニ於テ擇用ユベシ

○出母子兩斃訣

凡難産、日ヲ延キ終ニ母子俱ニ斃者アリ、コレヲ
分身セシムル術、上ノ諸術ヲ照シ機變ニ應シ
テ之ヲ出スベシ、又タトヒ順産ニテモ醫先ツ
手油ヲ用テ、陰門ヘ深ク進メ、容テ、兒

頭ヲ上ニ抑テ、押アゲテ手ノ進ムタケ、ハ以
ヤリニ進ムル寸ハ、腕マデモハイルモノナリ、
兒ノ足脚、醫ノ指頭ニアタラバ、足脚ヲ指頭ニ
テ拘シ引ヨセ、其脚尖ヲ探リ索テ、其雙足ヲ食
中無名ノ三指ヲ以テ夾ミ握リ拽ベシ、兒自ラ
轉身シテ速カニ出ルモノナリ、

○下胞衣訣

凡産婦、胎前疾病ニヨリ元氣虚脱シ、或難産日ヲ
延キ、或娩後俄ニ崩血スル者、真陽瘁憊、氣血耗

損スルニヨリ、娩後胞衣ヲ下ス₇アタハズ、終
 ニ日ヲ延キ子宮口緊縮シテ、イヨク胞衣下リ
 難キ₇ヲ致ス、産婦胞衣下ラザレバ死ヲ致ス
 ノ俗説ヲ信シ、狐疑憂思シテ終ニ鬱冒神怯怔
 忡昏暈等ノ惡症ヲ釀スモノナリ、コレガ治ヲ
 施サン₇必ズ粗暴ニナスベカラズ、調血ノ藥
 劑ヲ用テ、頰ノ脉症氣血精神定ルヲ待テ、而後
 胞衣ヲ下スベシ、凡コレヲ下スノ術、尊法卧法
 探頭術₇同シ、皆先ツ腰ヲ聳カシテ、婦ノ背後

ヨリ前₇探頭術₇按提スル₇數回、其際胞衣在
 ル所ヲ搦₇認₇ノ、兩臂ヲ張り翼₇ノ如クナシ、兩
 手ノ拇指ヲ相向ハシメ、任脉ノ兩傍ヲ夾₇、中
 腕ヨリ以下臍下ニ向テ、徐々ニ推シ下シ、胞衣
 ヲシテ下墜セシムル意ヲ帶₇ベシ、如此スル
₇三四回、胞衣下肚ニ至ル₇ヲ覺₇ハバ、手ヲ以
 テ按住シ、其處ヲ少シモ移動スル₇ナカラシ
 メ、人ヲシテ代リ按サシム、此時按₇ノ法、上邊
 ヨリ推₇下ノ意ヲ主トスベシ、慎テ前腹ヨリ胞

衣ノ在所ヲ按スベカラス、誤テコレヲオス寸
 ハ、其斷餘ノ臍帶縮入スルモノナリ、心得アル
 ベシ、サテ醫股間ニ出ル所ノ臍帶ヲナリ、左手
 ノ小指ニ卷キツケ、四指ニテ握ニ持チ、右手ヲ
 其上ニソヘ、拇指ヲ臍帶ニ沿テ陰中ニ入レ、而
 下邊ニ向ケテ引ベシ、此時醫頭ヲ低テ息ヲ歛
 メ、小心着實ニシテ、産婦ノ呼吸ヲ候ヒ、徐々ニ
 引ベシ、必粗暴ニナスヘカラス、次ニ胞衣漸々
 ニ下リ、此時アヲバ、少シニテモ小指ニ卷

キ添ヘ、其間ルマザルヤスニ心得ハシ、胞
 衣漸々子宮ヲ離レ陰門ヘサガルヲ覺ヘハ、左
 手ハ前ニ依テ引曳シ、右手ノ食中ニ指ヲ臍帶
 ニ沿テ、陰門ヘ進メ胞衣ノ衣附蒂ノ處ニ至リ
 テ、指頭ヲ以テ夾ンテ抜き取ルベシ、胞衣下テ
 後ハ、探頭術ノ條下ニ舉ルコトク、アトヘ攷絮
 ヲツメ置クヘシ、此
 又一種、産婦ノ強弱ニカ、ハラズ、兒胎生下スル
 入時、胞衣臍帶ニヒカレ、翻仰シテ中ニ淤血蓄

水ヲ盛り、コレガ為ニ填張シテ、下リ難キ者アリ、又胞衣ヲ下サント欲シテ、子宮口ニ臨ムノ際、蓄淤俄ニ聚リ前症ニ至ル者アリ、是ヲ外ヨリ探ルニ、硬満シテ恰モ兒頭ノ如シ、是皆蓄淤ニ因テ下リ難キ者ナリ、コレヲ下ス術ハ、醫先左手ニ臍帶ヲ握ル、前法ノ如クニシテ、右手本中指或食中二指ヲ、臍帶ニ沿へ上レ進メ、胞底ニ至リ、指頭ヲ以テ胞衣ヲ一邊へ寄セ疊ミ縮ムルナリ、臍帶ヨリ蓄淤ナガレ出テ、胞衣萎

縮ムルナリ、又指頭ヲ上へツキアゲ胞衣ヲ破ル寸ハ、涎水洩レ出テ、即チ下ルモノナリ、又指頭届キガタキ寸ハ、頸斷用器ヲ以テ胞衣ノ一邊ヨリ進メ、頸斷ヲ救フ法ノ如ク、胞衣ヲ一方へ抄ヒヨセル寸ハ、其隙ヨリ蓄淤ナガレ出テ、胞衣下リマスキナリ、此症前段ノ法ヲ用ヒテ、何ボト強ク引テ、系斷ニ至リテモ出ザルニ此術ヲ用ユベシ、又前段ノ法ヲ用テ、胞衣迄キニ臨ミテ、ソレヨリ留滞シ出ザルニモ

此ノ蓄滯ノモノアリ、心得ベキ也、

又一種、小便閉塞シテ膀胱填滿シ、胞衣ヲ壓ニ由
 テ下リ難キ者アリ、其甚シキニ至テハ、腹滿脹
 痛シテ手モ近ヅクベカラザルガ如キモノナ
 リ、コレヲ下ス法、先ツ導水術ヲ施シテ、其小便
 ヲ通ズヘシ、小便通ズル下ヲ得テ胞衣即チ下
 ルモノナリ、導水術ノ法、右手ノ食中二指ヲ以
 テ臍帶ニ沿ヘ深ク進メ、胞衣ヲ少シ上邊ヘア
 ンテ、
 肛門ノ方ニ向ケテ、強クコレヲ

推ストキ、
 下ルモノナリ、若此症ニ前ヨリ其術ヲ施シ難
 キヲアバ、婦ノ肛門ヲ少シ上サシメテ、背後
 股間ヨリ手ヲ進メ、前法ノ如ク胞衣ニ至ラシ
 メ之ヲ拘拽スベシ、術意上ニ同シ、
 又一種、媪婆胞衣ヲ下サントシテ、妄リニ強ク引
 テ、胞系ヲ衣附蒂ノ處ヨリ切斷シ、或ハ難産日
 ヲ延キ、胞系腐爛シテ終ニ斷切シテ、胞衣腹中
 ニ留リ下ラサル者アリ、コレヲ下スノ術、先ツ

前ニ言フ所ノ按腹ノ法ヲ用テ、胞衣ヲ臍下ヘ
 推シサゲ、陰門ニ逼リ迄ヅカレメ、其手ヲ少シ
 モ弛メシムルヲナクシテ、而左手ノ食中ニ指
 ヲ以テ子宮口ニ入レテコレヲ探ル、コトキ
 胞衣多クハ婦ノ前腹ノ方ニ在モノナリ、其胞
 衣指頭ニアタラバ、便チ二指頭ヲ以テ挟ミ出
 スベシ、若ナホ出難キ者ハ頸斷用器ヲ用テ、頸
 斷ヲ救フ法ノ如クニシテ、スクヒ出スヲ良法
 トス、又、
 用ヒ、挾ミ出スモ亦ヨシ、此時

胞衣ノ手ヲ分チ知リ難キヲアル寸ハ、先ツ
 試ニ手輕ニハサミ持テ、其痛否ヲ問ヒ、痛マサ
 ルモノハ即チ胞衣ナリ、即チ挾ミテ引出スベ
 シ、或ハ胞衣腐爛シテ段々ニナリテ出ルヲモ
 アルモノナリ、若シ如此手術ヲ施シ畢テ、猶イ
 マダ下シ難キモノニ及ンデハ、家方ノ如神散
 方見附録一二ヒヲ、白湯ニ和シ調ヘ與フベシ、
 一曰バカリニシテ胞衣自ラ下ルナリ、又難産
 日ヲ延キ、既ニ探領術ヲ施シ、兒ヲ出シ畢後、胞

衣ヲ下ントスル時、臍帶腐爛スルニヨリ、系斷
 ニ及ブコアリ、此時ハ兒出テ間ナク、陰戶未ダ
 縮リ復セザルウチニ、手ヲ陰門へ深ク進メ摯^{ツク}
 出スベシ、而レ氏斯術ノ如キハ宜ク其婦ノ虚
 實ヲ揣^かリ、實症ニアラズニバ、容易ニ施シ難シ、
 心得ベシ慎ムベシ、

外科探領



